

真新しい教科書 (特別の教科 道徳)

対象：小学校6年生以上

1 主題名 勝ち取った権利

2 教材名 「真新しい教科書」 (「あけぼの」 小学校高学年向け)

内容項目 C (13)

「誰に対しても差別することや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること」

3 主題設定の理由

道徳的価値	社会正義とは、人として行うべき正しい行為であり、民主主義社会の基本である。社会正義を実現させるためには、人々が真実を見極める社会的な認識能力を高め、偏ったものの見方や考え方を避けるように努めることが必要である。
児童の実態	社会的な差別や不公正さなどについて触れる機会はあるが、個々の事例に対して、現在に至るまでの経緯や人々の努力について深く考えた経験は少ない。
教材の活用	高知市のある地区の親たちが、教科書の無償配布運動を起こした場面を追求の中心場面とし、運動に至るまでの経緯や運動を支えた思いについて全体で追求することで、社会正義の実現について考え、自覚を深める。

4 ねらい

社会的な差別や不公正さなどの問題について社会の一員として考えを巡らせ、社会正義の実現に向けて努めていこうとする心情を育てる。

5 人権教育の視点

○教科書が無償化された経緯と意義について理解する。(知識的側面)

○差別に立ち向かっていった人々の勇気に共感する。(価値・態度的側面)

6 指導上の留意点

○解放令以降の近代の被差別部落の歴史については、差別解消のために全国水平社の創立に尽くした人々がいたことや差別により貧困に苦しんだ人々も存在していたことを振り返らせ、高知では、それらの人々が中心となって教科書無償運動をすすめ、運動の全国的なさきがけとなったことを資料の記述をもとに子どもたちと一緒に確認をする。

○被差別部落だけの問題ではなく、すべての親と子どもの問題であるととらえられるよう、教科書無償配布の恩恵を享受している自分を自覚できる場면을位置づける。

5 展開

	学習活動の児童の意識の高まり	指導・助言	時	備考
導入	1 自分の教科書を見ながら、その値段についての話を聞く。 2 かつては教科書が有償だったことについての話を聞き、今では当たり前のように手にしている教科書を手にできなかった子どもたちがいたことについて学習していくことを知る。	・現在の教科書の販売価格を紹介し、それが無償配布されていることを説明する。 ・昭和30年代の教科書購入に関わる大まかな状況を説明する。 ・教科書を買ってもらえなかった子どもの存在を知らせ、資料を読む動機付けとする。	5	
展開	3 資料「真新しい教科書」を読む。 4 貧しさから教科書が買えないため学校へ行けなくなったつらさと差別の不当性について考える。		15	資料1 「あけぼの」
	貧しさから教科書を買ってもらえなかったことで、学校へ行けなくなってしまった子どもたちはどんな気持ちだったのだろう。			

	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強ができなくて悲しい。 ・本当は学校で友達と遊びたい。 ・自分は、友達と同じ遊び道具を持ってなくて仲間に入れてもらえないような気持ちになったことがあったけど、そのような悲しさがずっと続くのだからつらい。 ・自分の力ではどうにもならないことが悔しい。 <p>・教科書をもってくるという当たり前のことができないから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書がないことの不便さや悲しみや学校へ行けなくなったつらさを想像している意見を受け止める。 ・自分の生活に寄せて考えているよさを認める。 ・本人や家族に責任あることではないことを確認する。 		
	<p>5 子どもたちに教科書を持たせるために教科書無償運動をおこした親たちの願いを考える。</p>		20	
	<p>高知市の〈教科書をただにする会〉の人々は、どのような願いや決意をもってこの運動をしたのだろうか。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・教室で教科書をもたせて学ばせたい。 ・貧しくても勉強をさせてやりたい。 ・貧しさは子どもたちの責任ではない。子どもたちを守りたい。 ・差別を受けないようにさせたい。 ・子どもたちが犠牲になることは許せない。 ・今ここで立ち上がらなければ変わらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに教科書を持たせたいと願う親の気持ちを吹き出しに書いて話し合いにつなげる。 ・運動を始めざるを得なかった人々の思いを考えあう。 ・子を思う親の願いが高知から全国に広がって実現していった価値ある運動であることを話す。 ・憲法 26 条の条文の意味と一緒に読み解き、本時の学習活動と関連させて考えることができるように意味づけていく。 		吹き出し
まとめ	<p>6 今の自分たちとのつながりを理解し、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動を進めた人たちは、憲法などを学んで「誰もが平等に学ぶ権利がある」ことを訴えて、無料で配られることを勝ち取ったので、すごいと思った。はじめて無料で配られた教科書を手にした人たちの気持ちを考えると、この教科書がすごく重みのあるものと感じます。大事に使っていきたいと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料をもとに、今の自分とのつながりを考えている意見を受け止める。 ・「保護者の皆様へ」の「意義と願い」にふれながら感想をまとめるように促す。 	5	資料2 [配布封筒]

資料1 「真新しい教科書」(「あけぼの」高学年向け)

資料2 文部科学省教科書配布封筒

(参考:『同和問題学習展開案』(長野県教育委員会))

保護者の皆様へ

お子様の御入学おめでとうございます。

この教科書は、義務教育の児童・生徒に対し、国が無償で配布しているものです。

この教科書の無償給与制度は、憲法に掲げる義務教育無償の精神をより広く実現するものとして、次代をなう子供たちに対し、我が国の繁栄と福祉に貢献してほしいという国民全体の願いをこめて、その負担によって実施されております。

一年生として初めて教科書を手にする機会に、この制度にこめられた意義と願いをお子様にお伝えになり、教科書を大切に使うよう御指導いただければ幸いです。

文部科学省